

今月の題字
堂黒正樹さん

(北海道札幌市)

10年ほど前から虹の架橋を読んでくださり、手紙でのお付合いが100回以上続いています。9月9日、久々に再会し、富弘美術館へご案内しました。

知生和解橋

第二十九回 全国芝居小屋会議

来る十一月二十九日・三十日に
ながめ余興場で第二十九回全国芝
居小屋会議を開催いたします。

全国芝居小屋会議は、芝居小屋の魅力を全国に発信すると共に芝居小屋を通じて文化の継承と発展を図る目的で結成されました。いま話題の映画『国宝』のロケ地にもなった兵庫県の出石永楽館も全国芝居小屋会議の会員仲間です。

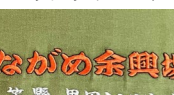


昔はどの町にもあつた芝居小屋も現に残つてゐるのは十六カ所ほどになり、その値が見直されてきており、ながめ余興場も注目を集めてゐます。

余興場の座布団にお名前が入ります

ながめ余興場の座布団を十六年ぶりにに作り替えるために協賛者を募集いたします。座布団には、今回も協賛者のお名前を刺繍し、ながめ余興場でのイベントの際に毎回大切に使用させていただきます。関東菊

花大会の開催期間中はながめ余興場内にご芳名を掲示いたします。



ながめ余興場
笠懸 黒田ミシンネーム

ながめ余興場
足利屋洋品店



名入れ座布団ご協賛募集

募集口数：先着350口

協賛金：1口5,000円

***協賛金1口で座布団1枚**
を作り、お名前、または社
名など（10文字以内）を刺
繡して、芝居小屋会議から
活用いたします。お申込用
紙は、小屋設計、足利屋、
シイナで配布します。

ありがとうの不思議な力

529号に『ありがとう』の不思議な力という文が載っています。

祖の遺した言葉にも、私が今も大尊敬してやまない松下幸之助翁の言葉にも、私が興味を持ち注目している小林正観さんの本にも、二戸出身の『ありがとうは魔法の言葉』の著者の五日市剛さんも、そして母の遺した言葉にも『ありがとう』と『感謝』の言葉の大切さが述べられています。大自然の心だからでしょうか。『ありがとう』の心と言葉を日頃から習慣づけていると、そうなる事柄が起きているということを知り、試してみよ

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の絵 《362》

趙国明さん『高原牧場』



世界青年画展金賞やフランスのル・サロン展入選などの受賞歴を持つ趙国明（ちようこくめい）さんは、一九六二年中国上海市生まれの画家。一九九九年三月にさくらもーるのセンターコートで開催した2度目の趙国明展に展示された作品の中で、中国ののどかな高原の牧場で少年が草笛を吹いている『高原牧場』という作品が一番印象に残りました。2度の展覧会中、趙国明さんとは何度もお会いして興味深いお話を聞かせていただきました。あれから26年が過ぎてしまいましたがこの絵を見るたびに趙国明さんの少年のような温かい笑顔を思い出します。

靖ちゃん日記

令和7年9月16日(火)

みどり市市制20周年を記念して作られる映画「赤土に眠る」の制作発表会に出席した。この映画のモデルは岩宿の赤土の切り通しの中から発見された磨製石器を見し、日本にも旧石器時代があったことを初めて証明した郷土の偉人の相澤忠洋さん。

相澤さんは、古代人の家系の湯もりの種
水、納豆の行商をしながら遠跡調査を続
け、著名な考古学者に会うために自衛隊で
何度も東京に通ったという。主役の相澤之
ん役は藤原季節さんに決まった。藤原さん
は来年4月から始まるNHKの朝ドラ
「風、薫る」にも出演が決まったというイ
ケメン俳優。若き日の相澤さんの写真にも
チョット似ている。藤原さんは相澤さんの
人柄や思いを知るために東京から自転車で
10時間かけて制作発表会に来たという。そ
の行動力に感動し、藤原ファンになった。
この映画が公開される頃は藤原人気がブ
レイクして風薫るどころか「藤原季
節風」が吹きまわっているかもしれない。



美術展またあの人に逢ひ
大間々から車で30分
の草木湖の畔にある富弘
美術館では今『ただ一つ
のものを持って』と題す
る企画展を開催中です。

去年の4月28日に天に召された星野富弘さんの作品からは、いつも多くの気づきや励ましをいただきます。「小さな実」という作品は、グミの実の絵に「私にできることは小さなことでもそれを感じてできたら きっと大きなことだ」という詩が添えられ、頑張ろうという気持ちにます。

美術館は、12月から改修工事のため休館となります。休館前には是非、行ってみてください。

虹の架橋ハニワ検索で、インターネットからでもご覧いただけます

第三百六十三号は令和七年十一月一日（土）発行予定です。